

平成22年 経営協議会学外委員からの主な意見等への対応状況

経営協議会	学外委員からの主な意見等	対応状況
第26回 (平成22年 1月28日)	〈本学における65歳までの雇用確保と人件費改善について〉	
	人件費比率の拡大に伴い、自ずと物件費が圧迫されてきているが、こちらの対策も具体的な案を出す必要があるのではないか。	効率的な物件費の節約により必要な経費は確保している。
	人件費比率の問題にあっては、もっと長期的なところを念頭に置いて議論する必要がある。	平成22年度からの選択定年制導入後、引き続き人件費比率の圧縮のための方策を検討している。
	物件費を削らなければならないご時世ではあるが、魅力的な環境をつくるということは、魅力的な中身、コンテンツを提供するのと同じくらいに学生を確保するのに重要である。	環境整備にも力を入れ、志願者の確保に努めている。
	定年の選択を、58歳くらいからスタートさせるというような改革も今後あり得るのではないかと。	平成22年度から導入した選択定年制の様子や、国家公務員の定年制の動向を見つつ検討することとした。
第27回 (平成22年 3月19日)	〈第二期中期目標・中期計画・平成22年度計画について〉	
	22年度計画に、学部の教養科目の再編検討及び地域・学術専門分野の構造化と体系化の検討開始が盛り込まれているが、学部そのものの再編は検討の対象に入れないのか。	平成24年度、学部改編を行うこととした。
	「教養教育について、総合的な思考力・対応力、社会適応力、社会的責任感について達成度基準を明確にする」という大きな課題が6年間の中期目標期間で達成できるのか心配である。	平成24年度、学部改編を行うこととした。
	外国語学部という名称により大学のイメージが固まってしまっている気がする。色々なことをやっていることが見えるような学部名を付けてはどうか。	学部改編の検討の中で、学部名の変更を行うこととした。
	日本語教育の拠点としての役割の強化について、もっと書き込む必要があると思われる。	年度計画において「日本語教育研究の世界的拠点としての役割の強化」についての記述を充実させた。
第28回 (平成22年 6月 9日)	〈外国語学部の改編について〉	
	入学後、別の地域にコンバートしたいという学生の意向を取り上げられるシステムを考えてほしい。	入学後の転部について制度化することとした。
第29回 (平成22年10月18日)	〈学部の再編について〉	
	就職活動が早くなり長期化する中で、学生が留学できるようにする方策を考えてほしい。	カリキュラムの構成を、留学をしやすい形になるよう学部改編案に盛り込んだ。
	他学部履修単位の活用について、学生に対する情報提供に配慮してほしい。また、履修についてのアドバイスをしっかりしてほしい。	各コースの履修内容を明確化し、他コースとの関連で履修について学生にわかりやすいシステムとした。
	〈国際交流会館3号館の整備について〉	
	大学の附帯的な支出についての見通しをはっきりさせておくべきである。	建築費、運営費とも入居者の家賃で賄い、大学では金銭的負担は負わない計画である。